

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成23年度第1回吉川市介護福祉推進協議会
開 催 日 時	平成23年7月21日(木) 午後3時00分から 午後4時50分まで
開 催 場 所	吉川市役所第2庁舎 204会議室
出席委員(者)氏名	中村 信委員、矢野 義光委員、戸張 英男委員、 大脇 利彦委員、中田 眞矢子委員、白井 美佐子委員
欠席委員(者)氏名	峯尾 武巳委員
担当課職員職氏名	いきいき推進課 課長 伊東 孝 いきいき推進課 課長補佐兼 介護給付係長 本間 廣勝 いきいき推進課高齡福祉係長 曾我 幸央 いきいき推進課介護認定係長 飯田 智子 いきいき推進課介護給付係 豊田 敏昭
会議次第と会議の 公開又は非公開の別	(1) 第4期吉川市高齡者福祉計画・介護保険事業計画の 進捗状況について (2) 第5期吉川市高齡者福祉計画・介護保険事業計画の 策定について ・第5期吉川市高齡者福祉計画・介護保険事業計画の 策定について ・アンケート調査の結果について ・事業計画策定のスケジュールについて
非公開の理由(会議を 非公開にした場合)	
傍 聴 者 の 数	2名
会議資料の名称	1. 吉川市高齡者福祉計画・介護保険事業計画の 進捗状況について ・高齡者サービス・地域支援事業 (資料1-1) ・介護保険給付 (資料1-2) ・高齡者人口及び要介護認定者数の推移 (資料1-3) 2. 第5期吉川市高齡者福祉計画・介護保険事業計画の 策定について ・第5期吉川市高齡者福祉計画・介護保険事業計画の 策定について (資料2-1) ・アンケート調査の結果について (資料2-2) ・事業計画策定のスケジュールについて (資料2-3)
会議録の作成方法	録音機器を使用した全文記録 録音機器を使用した要点記録 要点記録

会議録確認指定者	矢野 義光委員、白井 美佐子委員
その他の必要事項	なし

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
開 会	
課長あいさつ	
会長あいさつ	
事務局資料確認	
議事	
中村会長	議事の前に矢野委員、白井委員を議事録署名委員に指名する。
(1)第5期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について	(事務局説明) ・高齢者サービス・地域支援事業(資料1-1)、介護保険給付(資料1-2)、高齢者人口及び要介護認定者数の推移(資料1-3)について資料に基づき説明がなされた。
矢野副会長	資料1-1の養護老人ホームへの措置の実績が低いとのことであるが、実際の申請はどのようにされているのか。
事務局	何らかの要因で自宅では生活ができない方が対象となり、生活困窮や養護放棄・虐待の場合の方が該当するが、生活保護の対象になる可能性があれば、措置より生活保護を受給していただきながら、介護保険サービスを利用していただいているため、措置の件数は伸びていない。虐待の場合は、手続きに時間をかけられないので養護老人ホームへ入っていただくこともあるが、現時点ではそういったケースは増えていない。
矢野副会長	施設を決める場合、具体的にどのように行われているのか。
事務局	施設を選ぶ際には、近隣で空いているところをあたることになると思うが、他の制度で対応できているので、近年事例がない。独居高齢者も全国的に増えていく傾向にあるため、本市でも考えていかなければならない問題ととらえている。
矢野副会長	近年地域密着型サービスについて事業者も増えているが、実績は意外と低調であるようだが、それについてはいかがか。

事務局	地域密着型サービスについて、現状、吉川市ではグループホームがほとんどである。平成22年度に夜間対応型訪問介護が、本年度に入り認知症デイサービスの事業所ができた。小規模多機能居宅介護も市としては希望しているが、参加者がいなかった。夜間対応型訪問介護も潜在的な需要はあると思われるがなかなか利用が進まないという現状があるので、分析が必要と考えている。
矢野副会長	制度改正もあり、24時間対応の定期巡回・随時対応サービス等の新しいサービスも提示されたこともあり、関心をもっている。計画をつくるためにも利用者の実態を把握する必要がある。
中田委員	介護療養病床については、平成23年度末には廃止され、他の介護施設等への転換することが決まっているが、進捗についてはいかがか。現在利用している人がどうなるのか心配である。
事務局	先般の介護保険法改正案の中で、現存する施設については、6年間転換期限が延長された。
(2)第5期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について	(事務局説明) ・第5期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について、計画の趣旨や計画期間、高齢者人口や要介護認定者数の推移等が資料に基づき説明がなされた。(資料2-1)
矢野副会長	資料2-1の高齢社会、超高齢社会の説明があるが、それと合わせると1ページ目計画の趣旨にある「超高齢化社会」「高齢化社会」の「化」はとった方がよいのではないか。
事務局	そのように修正させていただく。
矢野副会長	計画期間の中に「戦後のベビーブーム世代が65歳以上になる平成27年の」という文章がある。趣旨はわかるが、別のわかりやすい表現はないだろうか。
事務局	国の「介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保するための基本的な指針」で平成26年度を目標とする説明の中に出てくる表現であるので、ご理解いただきたい。
中村会長	戦後のベビーブーム世代というのは、昭和22年頃から言うのだろうか。
事務局	一般的には昭和22年から24年に生まれた世代を指すようである。
白井委員	資料2-1に要介護認定者数の推移のグラフがあるが、要支援者数についても把握されているのか。
事務局	グラフ中は要介護者数と表現しているが、要支援者も含んだ総数で

	ある。
矢野副会長	保険給付費について、一人あたりの給付費にすると上昇している。介護報酬の改定によるものか、サービスの種類等や利用が増えたことなどによるものか。
事務局	両方が影響していると思われる。 (事務局説明) ・資料2-2に基づき、平成23年3月に実施されたアンケート調査の結果について説明がなされた。
大脇委員	サービスを利用している人と利用していない人では、介護保険料に対する負担感に違いがあるのだろうか。
事務局	居宅サービス利用者(8ページ)と要介護認定を受けていない65歳以上の人(29ページ)を比較すると、「多少負担とを感じる」と「負担とを感じる」を合わせた回答が、利用者では5割、要介護認定を受けていない65歳以上の人では6割となっている。また、介護サービスと保険料の関係については、今回は保険料段階別で集計をしているが、要介護度別等でも集計してみたい。
大脇委員	施設等への申し込み状況について、本人の意向ではなく、介護者には尋ねていないのか。施設等への申し込みは家族の方が来ることが多いが、本人だけではなく、家族にも聞かないとニーズは捉えられないのではないか。
事務局	本アンケートは、代筆可であるため、回答の中には介護者の意向も含まれていると思われる。また、介護者や65歳以上の未認定者への質問として将来自分が介護される場合の意向を尋ねているので、その中からも若干は読み取れるのではないか。
矢野副会長	私感になるが、以前の調査と比較して、回答に深刻さが表れてきているような気がする。あるいは制度についてより知りたいという要素が表れている。制度についてわかっている所とそうでない所があるので、まだまだ説明をしていく必要があると感じる。また、高齢者は孤独である。家族を含めコミュニケーションをもっと図っていく必要がある。認知症についても問題がたくさんあり、今後医療と介護の連携についても次期計画においては考えていく必要がある。以上のようなことをアンケートの結果をみて感じた。
事務局	医療と介護の連携については、非常に重要なことと認識している。本市でも平成22年5月に吉川松伏医師会、松伏町、地域包括支援センター、ケアマネジャー等で吉川松伏医療と介護連携の会を立ち上げ、療養病床の廃止とも関連するが、病院から自宅に戻ってきた方たちのため、地域包括ケアを見据えた連携づくりを進めているところである。
矢野副会長	ターミナルケアや認知症の方の支援、医療の専門的なこともあり、

<p>中村会長</p>	<p>マンパワーをどうしていくか等問題はたくさんあり、大変むずかしい問題であると感じている。</p> <p>医療と介護の連携は非常に大事なことである。一言で認知症といってもいろいろなかたちがある。病状も経過もいろいろあり、それによって看護・介護の仕方、薬の使い方など複雑に絡んで、課題がたくさんある。</p> <p>(事務局説明) ・資料2-3に基づき、事業計画策定のスケジュールについての説明がなされた。</p>
<p>矢野副会長</p>	<p>ただ今スケジュールについて説明があったが、介護報酬、医療報酬、介護従事者処遇改善のしくみ等、現時点では決まっていないことがたくさんある。今後状況も変わっていく点があると思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>先日も県の説明会があり、現時点のスケジュールが示された。国の決定は遅れがちであるが、平成24年4月からは次期計画をスタートしなければならないことから、ぜひご協力をお願いしたい。</p>
<p>(3)その他 事務局 閉会</p>	<p>次回の開催予定は、9月28日(水)午後3時からとする。</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成23年9月28日

署名委員 白井 美佐子

署名委員 矢野 義光